

大会名称: 第2回東アジアバスケットボール選手権大会

兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選

開催場所: 中国・南京 南京オリンピックスポーツセンター体育館

試合区分: No. 105 男子 予選ラウンド コミッショナー: Jiangan ZHOU

期 日: 2011(H23)年6月12日(日)

主審: Elias KOROMILAS

開始時間: 14:00

副審: Jun ZHENG、Kyo-Youn CHOI

終了時間: 16:00

<b>日本</b> (1勝1敗 グループB2位)	○ <b>94</b>	28 -1st- 17 19 -2nd- 16 22 -3rd- 18 25 -4th- 22 -OT1- -OT2- -OT3-	● <b>73</b>	<b>モンゴル</b> (0勝2敗 グループB3位)
-----------------------------	----------------	---	----------------	-------------------------------

第2回東アジアバスケットボール選手権大会 兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選、予選ラウンド第2戦。相手のモンゴルは昨日、第3ピリオド終盤までチャイニーズ・タイペイを苦しめた侮れない相手。日本は立ち上がりこそ12-17とリードされるも、その後プレスディフェンスからリズムをつかみ、47-33と14点リードして前半終了。後半、日本の3Pシュートが決まり点差を離すが、モンゴルも粘り強く、日本はセーフティーリードが保てない。第4ピリオド立ち上がりには#4木下が5ファウルで退場してしまうが、選手が声をかけ合って自分たちのバスケットを取り戻し、94-73と快勝。日本はグループB組2位準決勝進出と、第26回FIBA ASIA選手権大会の出場を決めた。

第1ピリオド、幸先良く#15竹内(譲)のゴールから先制。対するモンゴルは#8がインサイド、#15が3Pシュートで応戦し、中盤には12-17と5点リードされる。しかし日本はプレッシャーディフェンスから相手のミスを誘うと7連続得点を挙げ、28-17と日本がリードし終了。

第2ピリオド、引き続き日本のディフェンスが機能し、速攻から得点を挙げる。しかし、モンゴルのインサイドからの猛攻で4連続得点され、38-32と点差が縮まる。第1ピリオド同様、ディフェンスから激しく当たると再び点差は離れ、47-33と日本が14点リードで終了。

第3ピリオド、立ち上がりオフェンスリバウンドを獲りながらも、なかなか得点を決められない。その後、#7石崎、#9川村の連続3Pシュートで56-38とし、日本のリードは18点。しかし、モンゴルは体を張ったリバウンドから粘り強く得点を決め返してくる。20点差に届きそうで届かないもどかしい展開が続く、69-51と18点差のまま終了。

第4ピリオド、開始早々、#4木下がファウルに対して審判に抗議するとテクニカルファウルを宣され、5ファウルで退場。続けざまに#8柏木も同様な抗議でテクニカルファウルとなり、4つ目のファウルを犯す。荒れた展開になりかけたところを#9川村、#8柏木の3Pシュートで悪い流れを断ち切り、さらに#7石崎のフリースローで加点。82-62と20点差に引き離す。ベンチメンバーも含め全員がコートに立ち、94-73で今大会初勝利を飾り、グループB組2位で準決勝進出を決めた。

この結果により、中国、韓国、チャイニーズ・タイペイ、日本の準決勝進出が決定。さらに、開催国(中国)を除いた上位3チームに与えられる第26回FIBA ASIA選手権大会の出場権は、中国のベスト4以上が決定したため、韓国、チャイニーズ・タイペイ、日本が獲得した。

日本は休息日を挟み、6月14日(月)現地時間19:30~グループA1位の中国と準決勝を行う。

担当者: ((財)日本バスケットボール協会)

(財)日本バスケットボール協会